

ランドスケープのちから

06. ワークショップ

株式会社ランドスケープデザイン

植野紉 / 菊池由香

誰のためのデザイン？ - 地域に根付く居場所とするために

公園等の公共施設は、地域から愛される場にするために利用者の意見を取り入れることが重要です。以前は住民意見収集のためにアンケートを実施しましたが、回収率は低く、良い意見があっても平準化され、マイナスの意見に埋もれていました。自治体はより深く住民の声を聞く機会としてワークショップ（以降、WS）を実施するようになりました。当社では東京を中心に約 20 年前から取り組み、当初は試行錯誤でしたが、100 回近くの WS を重ね、ノウハウを蓄積しました。参加者の視点を大切にしながら、以下のことに留意し、WS の内容を組み立てています。

- 意見を出しやすいワークショップ内容か
- 参加者の意見を反映した公園計画になっているか
- 達成感が味わえるワークショップの回数か
- 1 グループの人数は適切か
- 参加しやすい開催日時と参加しやすい開催場所か
- 楽しくわかりやすい開催案内チラシになっているか
- 開催案内のタイミングは適切か

また、ファシリテーターも WS には欠かせません。ファシリテーターは、グループ内で、設計のノウハウがない参加者の意見を引き出し、デザイン的に紐解きながら、わかりやすく、楽しく、盛り上げながらグループの意見をまとめていく、いわば WS のエンジンです。いくら準備を丁寧にしても、エンジンの調子が悪ければ、前に進めません。ファシリテーターの技術は、多様な施主や、建築設計者、様々な関係者との調整を行ってきた、ランドスケープアーキテクトであればこそ、持ち合わせている技術だと考えています。20 年近く公園 WS に関わり、今は公園利用の転換期に來たと感じています。少し前は、「こんな遊具が欲しい！日影が欲しい！」「この場所にトイレは嫌だ！」などの公園完成時のハードに係る意見が主でした。しかし、現在は、参加者から「プレーパーク活動をしたい！」「ここをまちづくりの拠点として人が集まれる場所が欲しい！」など、ソフトな意見が多くなり、公園開園後も地域住民が作り上げていく公園を目指すことが多くなりました。このような自発的な住民意見を取り入れ、活動を支える動きも

公共建築の設計に当たり、利用する市民の要望をいかに取り入れるかは、大変難しくそして重要な課題です。実際 80 年代以降、設計プロセスに住民参加を取り入れる様々な試みが行われ、近年では、設計プロポーザルにおいてワークショップの実践が与件となることも増加しています。一方で、それが行政側の何らかの免罪符になっていないか、あるいはそれで本当に建築デザインの質の向上に繋がったのか、という疑問も耳にします。複雑な要素を統合する建築に比べると、公園の場合はもう少し単純です。完成後の利活用のイメージが

し易く、器用な人ならば、巧拙はともかく絵に描くことも比較的容易だからです。さらに住民参加の本来の目的を、完成後の活性化に繋げること、つまり計画と利活用の継続性にあるとするならば、公園ワークショップには成功例が多いと言えます。ファシリテーターとして、行政と市民の間に立って公平な立場から条件と要望を調整し、設計プロセスを通じて市民の意欲を醸成し、公園を愛する仲間を増やし、完成後のオープンスペースの活性化をデザインすること。これもまたランドスケープアーキテクトの職能の一つなのです。(植野紉)

重要なランドスケープアーキテクトの役割となっています。公園完成後も精力的に住民が関わり続けている公園はとても活気があります。その中でも、世田谷区立二子玉川公園は、開園後 10 年近く経っていますが、みどりグループ、安全安心グループ、子どもグループがあり、それぞれのグループが、公園に新たな魅力付けをしています。また、文京区立六義公園では、プレーパーク活動拠点となり、プレーパークならではのダイナミックな遊びを展開し、子どもの経験を豊かにしています。その他に、カフェや本屋などの誘致も、ワークショップで上がる話題となり、子どもや高齢者の居場所だけでなく、若い世代の居場所として認知されつつあります。その時代に合った、多様な人々の居場所になるよう、行政も巻き込み、ソフト面も含めた新たな多様性のある場を作っていくことが、ランドスケープアーキテクトのこれからの使命です。今後は、WEB 開催のワークショップなど、新たな技術を取り入れて、ワークショップへの参加のハードルを下げ、多様な意見を伺い、さらにその地域ごとの公園づくりを目指していきたいと思います。(菊池由香)



現地にて直接利用者の声を聴く WS 風景



子どもと同じ目線で考える 誰にでもわかりやすい公園ニュース



既存樹を残し、落ち着いた色合いの遊具や施設を配置。周辺との調和を図る



文京区立六義公園

所在地：東京都文京区 / 敷地面積：1.2ha（運動場も含む）
写真：Landscape Design inc.

江戸の代表的な大名庭園跡である「六義園」に隣接し、煉瓦塀に囲まれた緑豊かな公園。遊具は、木調に統一され、水景やトイレはモダンなデザインとなっている。



多摩川沿いの自然を引き込み、開発された高層ビル群と元の街並みをつなぐ



世田谷区立二子玉川公園

所在地：東京都世田谷区 / 敷地面積：6.3ha
写真：鳥飼祥恵

二子玉川駅近く、国分寺崖線の緑と多摩川の水辺に囲まれた公園。「公園サポーター」というボランティアが、自らが公園を良くしていこうと活動。大階段から富士山に沈む夕日を見るのは多くのファンを集める。